

(長岡京市) 自分ごと化会議 in 長岡京 第3回議事メモ

分科会	第3分科会
コーディネーター	石井 聡
ナビゲーター	なし
説明担当者(自治体)	なし
日時	2021年 7月 10日(土) 10時 0分から 12時 30分
場所	長岡京市役所 大会議室 A
その他	参加者数 <u>12名</u> 欠席者数 <u>15名</u>

総括

コーディネーター総括

- コロナ禍において、様々な地域活動が停滞しているが、改めて近所の人同士の何気ない会話や集まる場の重要性を認識した。
- 高齢者や障害のある人に対する行政サービスは色々あるが、それを知らない人を救い上げるのが地域の役割だという意見や、その制度から漏れてしまっている人を、どのように地域でフォローするかという意見が出た。

主な論点

- 論点① 直近の地域活動の現状について
- 論点② 公的な支援と地域の役割について

協議の流れ

① 直近の地域活動の現状について

コ) 直近の地域活動の状況はどうか？コロナの影響は？

委) 高齢者の地域活動は中止になっていた。みんなで集まってしゃべりたいがなかなかできない。そのため、認知症の高齢者は症状が進んだように思える。おしゃべりだけでも再開しようと考えている。今までは体操や歌を歌ったり、食事をしたりしていた。もっと短時間でいいのでみんなとしゃべるためにだけ集まりたいという声が多い。一人暮らしの方は1週間全くしゃべらないことも。

民生委員としての個別訪問もできていない。コロナ前のように家に上がってゆっくり高齢者の話を聞けない。話を聞いてほしいとおっしゃっていた方が数日後に亡くなられた。心を開いてもらっていたのに、話を聞けなかった自分を責めてしまった。

コ) コロナ渦での自治会活動はどうか？書面での会議になっている？

委) 自治会の活動は中止や書面会議になっている。組長会は全体で行うと密になるため、2班に分けて行っている。自治会内で顔を合わせる機会が少ないので、役員同士の意思疎通が希薄になっている。老人クラブ、サークル等の活動も自粛している。

委) 元気な高齢者は活動に参加してくれるが、一人暮らしで家にこもっている高齢者が心配。認知症も進む。リモートで訪問することができればいいなと思っている。

委) 自分の住んでいる地域では、困りごと（ごみ出しができないなど）はないかアンケートを行うことが決まった。困っている人を助けるボランティアを募るアンケートも実施予定。最終的に両者をマッチングさせる方針のようだ。

委) ごみの指定袋を使わずに出されている方がいたが、ごみのネットを管理するグループで対応している。

コ) 自治会のような組織でなくても助け合いができている事例。他にも地域で助け合いしているところはないか？

委) ごみのネットをしまい忘れている場合は、当番でなくても気づいた人がしまうようにしている。若い人に当番を回すとなかなかうまく進まない。また若い人は前日の夜にごみを出される。そうすると夜行性のキツネがごみを荒らす。

委) 自分の地域では、自治会はないが向こう三軒両隣の会というものをつくっている。小学校の施設を借りて、5世帯ほどで平日の夕方に月1回のペースで集まっていたが、コロナの影響で8月ごろまで中止となった。

コ) どういった方が参加しているのか？

委) 働いている世帯は、その妻が参加している。退職後の世帯は夫婦そろって参加する世帯もある。中止になっているのでしゃべる機会がなくなったという声も聞いている。

委) 集まれる場所があまりない。個人の家で集まるのは気を使う。

論点② 公的な支援と地域の役割について

コ) 地域の困りごとをサポートするような取り組みはないか?

PT) 介護認定を受けた方のごみ収集をサポートする取り組みはある。

PT) 「ふれあい収集」という制度。要介護認定を受けた方の可燃ごみを個別収集している。家の前にごみを出してもらう。資源ごみについては対応できていない。

コ) 行政がサポートしている事例。ただそれまで地域でサポートされていたことが、役所に任せておけばいいんだ、となってしまうかも。

PT) 公的な支援については一定の基準があるので、そこから漏れてしまう方がいるのも事実。地域の力があるところでは、そういった方をサポートしていただいているように感じている。支援が必要な方がいるということを地域で把握できるか、また本人が助けてほしいと言える地域かどうか問われていると感じる。

コ) フォーマルな支援とインフォーマルな支援の両方が必要。

委) 買い物はスーパーの配達サービスが増えており助かっているが、ちょっとしたものを買いに行くのがしんどい。

コ) ここで一旦休憩。休憩後は自分が高齢者になったと仮定して、無くなってしまうと困るサービスがないか議論をする。

～ 休憩 ～

委) マンションの自治会長をしている。駅近で買い物の利便性が高いマンション。全体で175世帯、自治会に加入されているのは100世帯ほど。高齢者世帯は50世帯ほどかと思う。利便性を求めて入居されている高齢者が多い。若い方は通勤に便利なので入居されている印象。長岡京市内から移られる方も多し。もともと住んでいた地域のコミュニティや老人会には参加していたが、当マンションではそれができないという指摘を受けた。わざわざ元の地域の老人会に参加されている方もいる。ようやく昨年からは老人会が発足したが、コロナ禍でお茶を飲みながら話をするといった活動もできなかった。先日ようやく柳谷へあじさい見学に行かれたとのこと。十数人ほどが参加された。メンバーは普段から自治会活動にも参加されている方が多い。自治会のイベントに来られない方は、老人会でお声掛けしても来られない。さきほどごみ収集の話が出たが、当マンションは収集場所がマンションの下にあるので、ごみ出しに困っているという声は聞かない。公的な支援から漏れる人を地域で拾い上げているという話があったが、公助を知らない人を救い上げるのが地域の役割だと思う。行政がやらずに地域でやるのと単なるボランティアになる。若い人は仕事もあるので回らない。そのしわ寄せは高齢者にいく。地域のやる気や熱意だけで解決するものではない。我々が行政のサービスにどうつなげるかが「自分ごと化」ではないか。

委) 長岡京市ではマンションが自治会の単位になっているものが多いのか?

- 委) マンションが自治会の単位となっているのは、エスリードとグリーンフォートだけ。市民運動会は、開田自治会の一部として参加している。
- 委) 高齢者は歌うことが好きな人が多いが、コロナで活動ができていないと思うので心配。
- 委) おしゃべりだけでなく、カラオケなどの娯楽で横のつながりを深めていた人が多いように思う。コロナで娯楽を行うことが難しくなった。リモートで対面と同じ満足感が得られるかは疑問。顔を合わせて話ができる機会をどのように確保していくかが課題だと思う。
- 委) 今年の3月まで家が自治会の組長をしていた。親が忙しいので、自分が主で活動に参加していた。ごみステーションのネットが重く、足の悪い高齢者の方は負担になっていると思う。ふれあい収集は初耳だった。知らない人が多いと思う。
- ただ、すべてを行政に任せてしまうことはどうかと思う。ほとんどの自治会で参加する若者が減少しており、すべてを行政に任せてしまうと自治会の存続問題にもつながる。行政の財政負担も増える。そのバランスをこの会議で見つけていけたらと思う。
- コ) ふれあい収集の情報は、対象者に届いているのか。
- PT) 介護事業者を通じて申し込みいただく仕組みになっている。
- 委) エレベーターがついていないマンションの方は、マンションの前まで持っていくのも大変。そのあたりも今後検討してもらいたい。
- 委) 一般の市民の認知度が低い。
- PT) 市ホームページには掲載しているが、伝わっていないと認識している。
- 委) 市のLINEで広報をしてはどうか？
- 委) お年寄りにはホームページやLINEを使いこなせない。そういった方にも伝わる仕組みを考えないといけない。
- コ) 広報の仕方は難しい。情報を伝える世代によって方法を変えないといけない。困っている人とネットワークを持っている人にまず情報を伝えて、その人からみんなに伝えてもらうのも一つの方法。どんな方法でも最終的に困っている人に情報が伝わればいい。
- 委) 高齢者への情報の周知や訪問の際に、ICTは使いこなせない方がいる。電話や回覧だと満足感がないのが課題だと思う。子どもと高齢者との関わりを増やせないか。ボランティアでもやりたい人はいるはず。
- コ) 神奈川県藤沢市の高齢者施設では、アパートの一階を高齢者専用にして、2階を学生に安い家賃で貸している。その代わりに学生は、大学に行くときに1階の高齢者に声をかける。また併設されているカフェで高齢者とおしゃべりをするのが求められる。そういった形で高齢者と若者を結び付けている。
- 委) 地域力が問われている。地域の中にいろんな組織があるので、それぞれが有機的に連携し、課題を解決していく仕組みが根付くことが大事だと思っている。長岡京市ではいくつかの地域がそういった形でやられていると思う。
- コ) よその自治会がどのような活動をしているかなどを共有する仕組みはある？

(様式3)

- 市) 年一回、小学校区ごとの自治会の取り組み No.1 を決定し、全体の自治会長会で共有している。昨年度はコロナの影響でできていない。
- コ) 高齢者の運動の状況はどうか？
- 委) 老人クラブのサークル活動ではグラウンドゴルフが盛んだと思う。ラジオ体操や太極拳なども公園でされている。
- コ) 次回も、今日の話を発展する形でアイデアを出していただきたい。

次回の分科会に向けた準備

次回の分科会の進め方

- 引き続き、地域をより良くするためのアイデア出し

委) : 委員、コ) : コーディネーター、ナ) : ナビゲーター、市) : 説明担当者